武蔵野の森総合スポーツ施設基本構想

平成２１年４月

東京都

目　次

基本構想の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１章　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の基本的な考え方　・・・・2

１　総合スポーツ施設の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（１）スポーツニーズの多様化とスポーツ施設の役割・・・・・・・・・・・・・2
（２）多摩のスポーツ振興拠点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の目的と施設の位置づけ・・・・・・・・4
３　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の基本的な考え方・・・・・・・・・・・5
（１）多摩地域のスポーツ振興、まちづくりに貢献する施設・・・・・・・・・5
（２）トップレベルの競技大会に対応できる施設・・・・・・・・・・・・・・・5
（３）スポーツ・フォア・オールを実現できる施設・・・・・・・・・・・・・・6
（４）安心してスポーツができる、人と環境に優しい施設・・・・・・・・・・6
（５）「武蔵野の森」の景観にふさわしい施設・・・・・・・・・・・・・・・・6

第２章　武蔵野の森総合スポーツ施設の概要・・・・・・・・・・・・・8

１　建設予定地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２　施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（１）メインアリーナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（２）サブアリーナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（３）屋内プール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（４）補助競技場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（５）駐車場など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（６）その他施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
３　武蔵野の森総合スポーツ施設で対応できるスポーツの展開・・・・・・12

基本構想の位置づけ

「武蔵野の森総合スポーツ施設基本構想」は、調布基地跡地における総合スポーツ施設の整備を進めるに当たって、「基本的な考え方」、「施設の概要」、「整備スケジュール」など、今後策定する基本計画に向けて、考え方をまとめたものです。

今後、この基本構想を踏まえて、各施設が持つべき機能や詳細な施設内容・規模についてさらに検討を行い、基本計画の策定につなげていきます。

第１章　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の基本的な考え方

１　総合スポーツ施設の必要性

（1）スポーツニーズの多様化とスポーツ施設の役割

スポーツを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、都民のスポーツに対するニーズは多様化・専門化しています。

勝敗や記録を競う競技スポーツから、だれもが気軽に参加できるニュースポーツ、レクリエーションまで、都民のスポーツへの取組は様々です。

また、国内外のトップアスリートの競技を間近で観戦し、感動を共有したり、大規模なスポーツイベントをボランティアとして支えることで、スポーツに接する都民も数多くいます。

その一方で、都民のスポーツ離れが年々進行し、とりわけ働く世代でスポーツ実施率が低くなっているほか、子供の体力は長期的に低下傾向にあります。

こうしたことから、一人でも多くの都民がスポーツに親しむことで、健康的な生活を送ることができるよう、都民のために快適なスポーツ施設を提供することが求められています。

さらに、スポーツをしていない都民へのきっかけづくりや、子供から高齢者まで、都民のだれもがいつでも身近で気軽にスポーツを楽しむことができる場としての、スポーツ施設の整備・充実が大きな課題となっています。

（2）多摩のスポーツ振興拠点

東京都では、これまで、東京体育館（渋谷区）、駒沢オリンピック公園総合運動場（世田谷区）、東京武道館（足立区）及び東京辰巳国際水泳場（江東区）の ４か所の都立スポーツ施設によって、広域的かつトップレベルのスポーツ需要に応えるとともに、区市町村が運営する身近なスポーツ施設と連携して、総合的なスポーツ施設サービスの提供を図ってきました。

今後とも増大し、多様化する都民のスポーツニーズに応えていくためには、こ

れまで大規模な公立スポーツ施設がなかった、多摩地域への施設展開を図ることが必要です。

新たに整備するスポーツ施設は、平成２５年に多摩地域を舞台に開催される東京国体やその 3 年後に控えたオリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、スポーツのすそ野を拡大するとともに、計画的な競技力の向上を図る上でも、重要な拠点となることが期待されます。

400 万人を超える人口を擁し、首都圏の中核拠点として一層の発展が期待される多摩地域に、多様なスポーツニーズに応える総合スポーツ施設を整備することによって、東京のスポーツムーブメントを高揚させ、「東京都スポーツ振興基本計画 ～スポーツが都市を躍動させる～ 」（平成 20 年 7 月策定）に掲げた「スポーツ都市東京」の実現につなげていくことが可能となります。

２　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の目的と施設の位置づけ

だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、健康的な生活を送ることができる「スポーツ都市東京」を実現するため、調布基地跡地に、東京都のスポーツ振興に役立つとともに、多摩地域の拠点となる総合スポーツ施設を建設します。

○ 都民の多様なスポーツ活動に対応する総合スポーツ施設
○ 国際大会、全国的・全都的なスポーツ大会が開催可能な施設
○ 味の素スタジアムとあわせたスポーツ拠点の形成

３　武蔵野の森総合スポーツ施設整備の基本的な考え方

（1）多摩地域のスポーツ振興、まちづくりに貢献する施設

武蔵野の森総合スポーツ施設は、隣接する味の素スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点を形成することで、多摩地域のスポーツ振興に貢献するとともに、周辺地域のにぎわい・活性化など、まちづくりにも貢献します。

単一のスポーツ施設だけでなく、屋内外を問わず数多くの種目に対応できる複合的、総合的なスポーツ施設として整備することで、地域スポーツ、レクリエーションから競技スポーツまで、都民の幅広いスポーツニーズに応えていきます。

また、快適な観戦環境やスポーツボランティアの活動に配慮した設計を取り入れ、スポーツとの多様なかかわりや楽しみ方を実現する施設とします。

さらに、国際的競技大会や大規模スポーツイベントの開催により、まちににぎわいとうるおいをもたらすほか、多彩なスポーツ事業の展開によって、国内外からの来訪者と地域住民の交流を促進する、ランドマーク的な存在となる施設を目指します。

（2）トップレベルの競技大会に対応できる施設

武蔵野の森総合スポーツ施設は、都が設置する「全都・広域施設」として区市町村のエリアを越えた大規模スポーツ大会が開催できる機能に加え、国際的競技大会にも対応可能な施設として整備を進めていきます。

特に、中核施設となるメインアリーナについては、東京体育館に匹敵する競技フロアの面積と観客席を備えた、多摩地域最大級の屋内スポーツ施設として、トップレベルのスポーツ大会が開催できる環境を整えます。

国内外のトップレベルの競技や試合を身近で観戦する機会を提供することによって、高度な技術の習得に対するニーズに応えるとともに、子供たちのスポーツに対する夢やあこがれの醸成に貢献します。

（3）スポーツ・フォア・オールを実現できる施設

武蔵野の森総合スポーツ施設は、子供たちの成長・発育に必要な基礎体力や運動能力の形成、青少年の交流や競技トレーニング、働く世代の生活習慣病予防、高齢者の健康や生きがいづくり、障害者の自立促進や社会参加の推進など、すべての都民がライフステージに応じてスポーツに親しむことを支援する施設です。

子供から高齢者まで、また、個人や団体がそれぞれの目的に応じて気軽に利用できるように配慮し、身近なスポーツ施設として整備することで、「スポーツ・フォア・オール*」の実現を目指します。

＊スポーツ・フォア・オール：子供から高齢者まで、都民のだれもが生涯を通じてスポーツに親しむことができる社会の実現を目指すことで、「東京都スポーツ振興基本計画」の基本理念。

（4）安心してスポーツができる、人と環境に優しい施設

武蔵野の森総合スポーツ施設は、子供から高齢者まで、また障害の有無や体力にかかわらず、だれもが分け隔てなく安心してスポーツを楽しめる、都民の交流の場となることを目指します。

そこで、施設の整備に当たっては、あらゆる人が快適にスポーツができるように、また、だれもが気軽にスポーツ観戦を楽しめるように、施設とその周辺のユニバーサルデザイン化を図ります。

さらに、地球環境に優しい施設とするため、省エネルギー・再生エネルギーを積極的に導入し、低 CO_2 型都市づくりに貢献します。

また、施設の耐久性の向上、維持管理コストを低減する設計や技術の採用により、ライフサイクルコストに配慮した効率的な施設を整備していきます。

（5）「武蔵野の森」の景観にふさわしい施設

武蔵野の森総合スポーツ施設の周辺には、神代植物公園、野川公園、武蔵野公園など緑豊かな都市公園や、多磨霊園をはじめとした広大な緑のオープンスペー

スが有機的に結びつき、「武蔵野の森」を形成しています。

今回、整備を計画しているスポーツ施設は、味の素スタジアムなど既存の武蔵野の森東側施設と合わせて、この「武蔵野の森」の中核となる施設です。

このため、整備に当たっては東側施設との一体性に配慮しながら、施設計画・外観計画をつくるとともに、周辺の緑との調和を重視した「武蔵野の森」にふさわしい景観づくりを検討していきます。

また、地域に親しまれている既存樹木について調査を行い、可能な限りその保全に努めていきます。

第２章　武蔵野の森総合スポーツ施設の概要

１　建設予定地について

武蔵野の森総合スポーツ施設の建設予定地は、京王線「飛田給駅」から徒歩５分の距離にあり、甲州街道に面しているとともに、中央自動車道「調布ＩＣ」からも車で数分の距離にあります。

面積は、約 6.7 ヘクタールで、北東側は調布飛行場に隣接し、東側には、Ｊリーグの試合等が開催される味の素スタジアムやアミノバイタルフィールドが整備されています。

また、予定地の北側をはじめ、周辺にはスポーツ広場が暫定的に整備されるなど、総合的スポーツ・レクリエーションゾーンが形成されつつある地区であり、既設の大規模スポーツ・レクリエーションゾーンである代々木公園、神宮外苑、駒沢オリンピック公園等にも匹敵する規模であるといえます。

２　施設の概要

武蔵野の森総合スポーツ施設は、面積上の制約や、周辺との調和などを考慮し、多様なスポーツニーズに対応しうる大規模スポーツ施設として、多摩地域のスポーツ振興拠点にふさわしい施設内容・機能を備えた、以下の屋内施設、屋外施設を整備します。詳細な内容・規模については、さらに検討を進めていきます。

（1）メインアリーナ

メインアリーナは、国際大会・全国的な大規模大会が開催可能な、種々のスポーツ大会等の会場として利用される施設として整備します。

競技フロアは、バレーボール、バスケットボールの場合、同時に４試合が実施可能な面積の確保を目指します。この場合、国内のアリーナとしては世界的レベルの施設・設備を誇る「東京体育館」とほぼ同等程度の規模になります。

床の構造は、木材を使用して弾力性を持たせるとともに、天井の高さも、バレーボールやバスケットボールだけでなく、新体操、バドミントン等の室内競技の利用も考慮して検討していきます。

観覧席は、国内で有数の規模となる、8,000 席～10,000 席程度（仮設席を含む。）とし、国際大会の会場として十分な収容力の確保を目指します。

また、メインアリーナにおいては、スポーツ大会だけでなく、その収容力を活かして、多種多様なイベントが開催可能となるよう、座席の配置形態や音響設備の仕様等についても、今後検討を進めていきます。

（2）サブアリーナ

広域的な大会の会場、練習やスポーツ振興事業の場として利用するとともに、メインアリーナの補完的な役割を担う施設として、サブアリーナを整備していきます。

競技フロアは、バレーボールやバスケットボールが同時に２試合実施可能な面積の確保を目指します。

また、床の構造及び天井高は、メインアリーナと同様の配慮を行うこととし、観覧席は、小規模大会の会場として利用する場合を考慮して、数百人程度の席を設置します。

さらに、サブアリーナは、剣道や柔道などの武道大会やその練習会場として使用することができる施設として整備していきます。

武道は、我が国固有の伝統と文化に触れることができる大切な種目であり、中学校において武道が必修化されるなど、その重要性についての認識が高まっています。

日本の伝統文化である武道を実践できる場を提供していくため、畳を常備するなどの設備を検討します。

（3）屋内プール

屋内プールは、都民が個人で利用できるプールとして活用するほか、広域的な大会が開催可能な競泳用プールとして活用していくため、50m国内公認プールとして整備します。

7 コース以上を備えた、水深 1.35m以上のプールとし、競泳だけでなく、水球やシンクロナイズドスイミングにも対応できるように、プールの幅は 20m以上確保するとともに、各競技規則に合致するような施設を目指します。

また、大会会場として利用する場合を考慮して、大会を観戦する人が集まることができるスペースの設置について検討していきます。

（4）補助競技場

東京国体の開催に必要な第三種公認陸上競技場を、味の素スタジアム（第一種陸上競技場として公認予定）の補助競技場として設置します。

日本陸上競技連盟の規程に基づき、１周の距離が４００mの全天候舗装でトラックは８レーンとし、フィールドは天然芝とします。

加えて、広域的な大会を開催可能にするため、数百席程度の観客席を設置します。

また、補助競技場のフィールドは、陸上競技だけでなく、サッカー、ラグビー、

アメリカンフットボールなど、多様な屋外競技ができる施設を目指します。

なお、補助競技場は、東京国体前年のリハーサル大会（平成２４年）の会場として利用することが予定されているため、これに間に合うように、整備を進めていく必要があります。

（5）駐車場など

武蔵野の森総合スポーツ施設建設予定地は面積上の制約がありますが、駐車場については、利用者の利便性を考慮して、構造などの工夫を行い、必要な量について、整備を検討していきます。

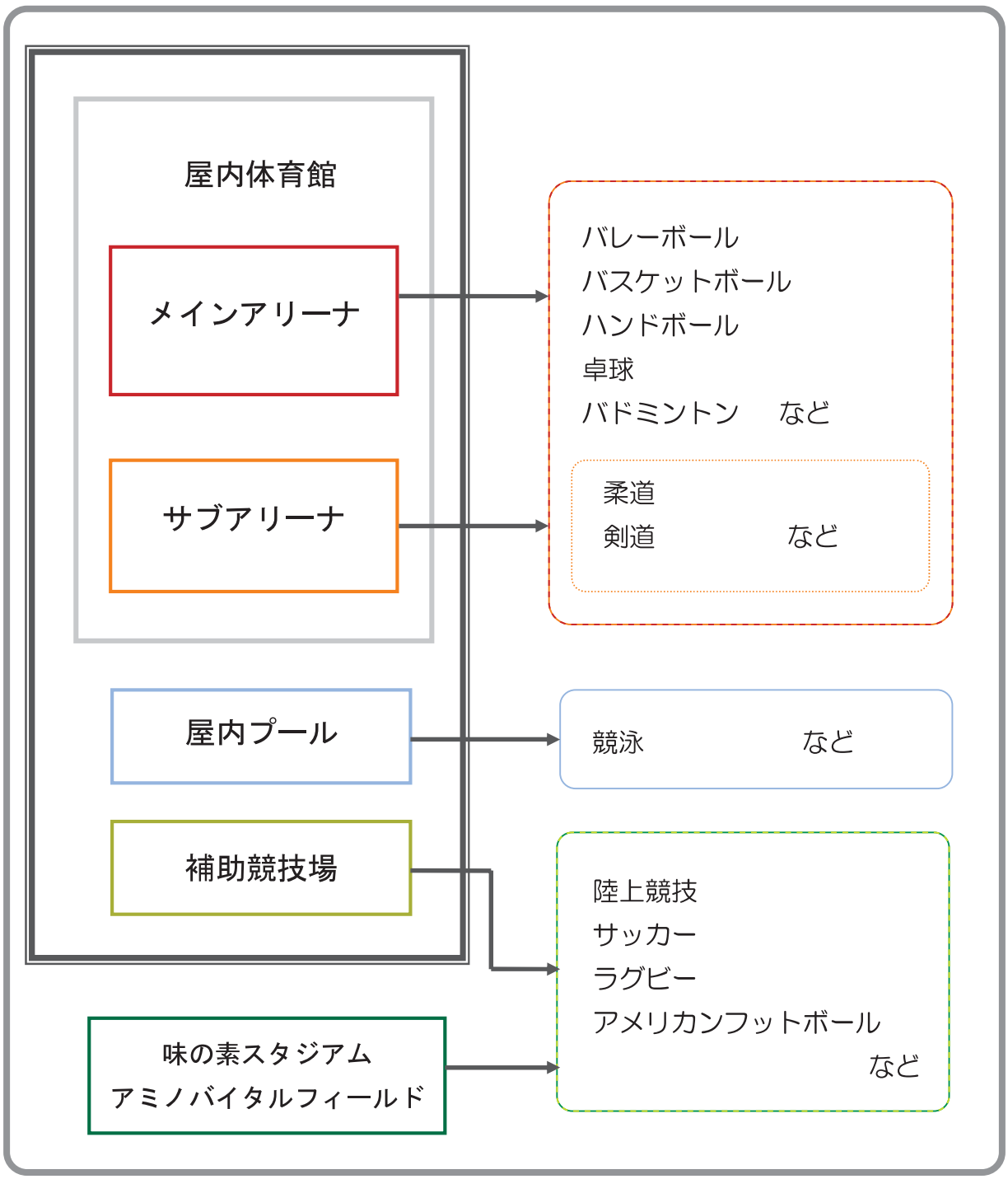
また、メインアリーナ等におけるイベント開催時には、選手、関係者の移動に必要な大型バス、機材の搬入・搬出に必要な大型トラックなどの駐車場を確保することが必要であり、これらの車両に対応した進入路や待機スペースの確保も検討していく必要があります。

さらに、味の素スタジアムとの一体的な歩行者動線を確保していくため、東側施設に現在設置されている歩行者用デッキと接続するペデストリアンデッキを整備し、安全で快適な歩行者空間を整備していきます。

（6）その他施設

武蔵野の森総合スポーツ施設を、安全で利便性の高い施設にするとともに、競技者、観客、大会運営者、スポーツ振興事業の参加者など、様々な目的を持つ利用者にとって魅力的な施設としていくためには、附帯施設についても、今後検討していく必要があります。

そのため、大会開催時の選手控室や大会役員室、施設の利便性、魅力を高める食堂や物販などの必要性や仕様についても、建築条件や費用対効果等を総合的に考慮しながら検討していきます。

３　武蔵野の森総合スポーツ施設で対応できるスポーツの展開

武蔵野の森総合スポーツ施設は、以上の方針に基づき、都民の多様なスポーツ活動に対応できる施設として整備します。完成後は、味の素スタジアムなど東側施設と合わせて、屋内外を問わず、数多くのスポーツが展開できるようになります。